

地域観光の可能性と課題

——タイ国・メイカンポン村のコミュニティ・ベース・ツーリズム研究——

梶山女学園大学 米田公則

1. 目的

2006年観光立国推進基本法の成立後、観光は国の成長戦略の柱の一つと位置付けられ、「観光立国」を目指してきた結果、2018年度では訪日外国人観光客数は3000万人を超え、観光業が我が国の最も重要な成長産業となっている。国がこれほどまでに観光に積極的な理由の一つには、観光が地域活性化を可能にする有力な手段とみなされていることにほかならない。近年観光社会学の研究成果も多く蓄積されつつある。しかし、地域社会学の視点から観光を位置付けている研究成果は多くはない。

本報告の目的は、近年我が国においても注目される観光が地域コミュニティとどのような関係にあるべきかを検討するために、発展途上国を中心に積極的に進められているコミュニティ・ベース・ツーリズム community based tourism (以下、C B T) に注目しその可能性と課題に明らかにする。タイ国は早くから観光を主要産業と位置づけ、いわば「観光先進国」という側面を持っている。それゆえに近年マス・ツーリズム持つマイナス面に考慮し、持続可能なツーリズムのあり方を模索し、オルターナティブ・ツーリズムの一つとしてC B Tを位置付けている。C B Tはいわば、コミュニティが観光を管理する主体となるものであり、我が国ではほとんど注目されていないが、コミュニティとツーリズムの関係のあり方に多くの重要な示唆を与えるものである。

2. 対象と方法

本研究は、タイ国C B T成功の村として最も注目されることの多いメイカンポン村を対象としている。メイカンポン村は観光都市チェンマイ市から北東約50km離れた標高550mから1700mの冷涼な高地にあり、村の7割が森林地帯で、総人口300人程度の村である。主要産業は農業であるが、村民の内134人が何らかの形でC B T活動に参加している。調査では村のリーダー層に対するインタビュー調査並びに現在メイカンポン村においてホームステイ事業を展開している村民に対するアンケート調査を実施した。メイカンポン村では現在、C B T事業の中に位置づけられているホームステイ経営者と個人経営によってホームステイ受け入れを行っているホームステイ経営者とが共存している状況である。本調査ではC B Tによるホームステイ経営者19名、個人経営者23名を対象に、タイ国Payap大学 CBT 研究所の職員の協力を得て、アンケート調査を実施した。

3. 結果と考察

メイカンポン村のC B Tは単に観光において成功しているにとどまらず、コミュニティが観光事業を管理・運営し、その利益をコミュニティ全体に還元する仕組みを持ち、いわば観光開発をコミュニティがコントロールするという点においても注目される特質を持っている。その特質を形成した背景にはコミュニティの歴史や共同事業による「共同性」が重要なカギとなっていた。しかしながら、近年、C B T経営とは異なる個人経営がコミュニティによって許可され、変化を生じ始めている。そしてその背景には、村内のICT環境の整備、携帯電話の普及が大きく影響していることが明らかになった。